

アフリカ・マラウイ共和国デッサ県と 宮城県との技術協力（農業水利分野）

- マラウイで必要とされる技術は、現地で適用でき持続可能な「**適正技術**」。
- 協力に際しては、現地で入手可能な資材の活用や、現地の社会に適合した水利管理指導等の柔軟な技術及び調整力・交渉力等の総合的な应用能力が必要。
- 「適正技術」の移転・定着に向けて、JOCV派遣職員の現地活動に加え、県技術職員のサポート・連携により、マラウイの地方政府の技術者を育成。
- 宮城県の農業土木技術は、灌漑技術・灌漑管理に関する中国吉林省への協力を通じた経験と実績があり、その知見を活かした協力。



マラウイ湖



主食のシマ（トウモロコシの粉）



主食として米も利用する



宮城県の農業水利分野における 事業の枠組み

青年海外協力隊派遣

マラウイ国デッサ県の農業水利
技術者の人材育成
～技術は人の中に宿り，受け継がれる～

課題発見

専門家派遣
研修員受入
資機材供与

パッケージ

① JICA青年海外協力隊への現職派遣
2010～2015(3期6年)

全国初の地方自治体職員JOCV継続派遣

② JICA草の根技術協力事業を活用した
組織的支援
第1期 2011～2013年
第2期 2014～2016年
第3期 2017～2019年

持続可能な技術の移転

- ・マラウイ国の技術者自らが課題解決
- ・日本の技術や仕組みを応用し，マラウイ国の伝統や社会に適合したものに改変



協力隊活動（測量）



協力隊活動（取水施設の管理状況確認）

宮城草の根技術協力事業 「研修員受入れ」

宮城県では、平成23年度よりアフリカ・マラウイ共和国より研修員受入事業を行っており、平成28年度までに延べ18名の研修員が測量・設計技術や農業水利施設の管理状況及び土地改良区による組織的な維持管理について学んでいます。

研修員受入れでは、土地改良区や民間企業から講師の招聘やフィールドの提供を受け、協力体制を構築し研修を実施しています。協力団体は14団体となり、「地方の力」が大いに発揮され、マラウイ国技術者の技術力及び意欲向上に寄与しています。

特に土地改良区においては、事業当初から県と協働し、灌漑施設の管理、土地改良区の仕組みなどの講義を行っています。研修員は、大堰頭首工をはじめ内川の景観・環境に配慮した水路等の管理状況を学び、土地改良区組合員が組織的に施設の管理を行っていることに感銘を受けていました。

現在、マラウイ共和国では、灌漑施設の維持管理改善の途上であり、同国に土地改良区組織を導入する検討をしています。

【平成23年度研修員】



現地研修



事業計画策定及びワークショップ手法の講義



記念撮影



現地研修（大堰頭首工）

「研修員受入れ」

【平成24年度研修員】



講義（土地改良区のしくみ）



測量実習（栗原市）



【平成25年度研修員】



CAD実習（栗原市）



施設見学（大崎市内川）



「研修員受入れ」

【平成26年度研修員】



現地研修（ほ場整備）



現地研修（ポンプ場）



粗朶工法製作実習



【平成27年度研修員】



いきもの調査（大崎市）



測量実習（柴田郡川崎町）



「研修員受入れ」

【平成28年度研修員】



現地研修（ほ場整備）



いきもの調査（柴田町）



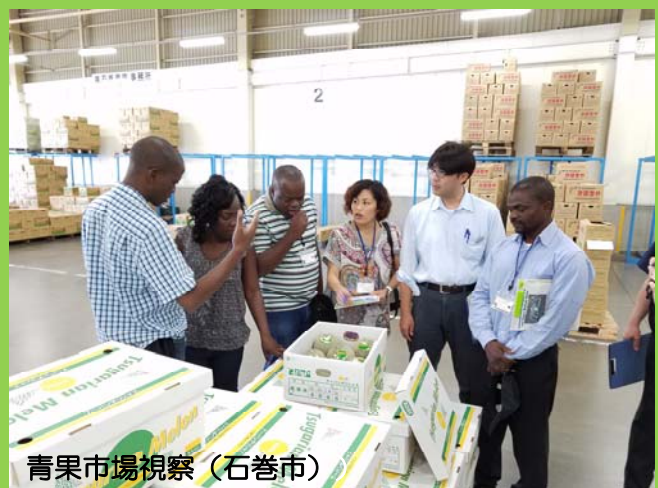
粗粃工法製作実習



測量実習（柴田郡川崎町）



農家訪問（栗原市）



青果市場視察（石巻市）



「研修員受入れ～日本を楽しむ～」



フットサル



県民との交流 (JICafe)



松島



仙台七夕



岩手



「専門家短期派遣」

みやぎ草の根技術協力事業では、毎年1回マラウイ国に専門家4～5名を短期派遣しています。専門家は、①事業遂行状況の確認、②現地調査を行い、課題の抽出、③マラウイ国政府高官への報告、④政府職員を対象とした技術移転セミナーの開催等を行っています。

宮城県で研修を受けたマラウイ国職員が、日本で得た知識や技術を普及・定着のために精力的に活動している様子がうかがえます。着実に技術の移転が進んでいると実感しています。



技術移転セミナー



現地調査及び農民からの聞き取り調査



粗朶工法の実践



粗朶工法施工箇所（丸罫部）の調査



農業省大臣と会見（2015.1）



資材の供与（2017.1）



事務次官を囲んで（2017.1）

Warm Heart of Africa

